

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道20号 <small>しもすわおかや</small> 下諏訪岡谷バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点 自： <small>ながのけんすわぐんしもすわまちひがしまち</small> 長野県諏訪郡下諏訪町東町 至： <small>ながのけんおかやしいまい</small> 長野県岡谷市今井			延長	5.4km
事業概要 一般国道20号は、東京都中央区から山梨県甲府市等を通り、長野県塩尻市に至る延長約225kmの幹線道路である。一般国道20号下諏訪岡谷バイパスは、現道である国道20号の交通混雑の緩和と交通安全の確保を目的として計画された事業である。				
H4年度事業化		H2年度都市計画決定		H6年度用地着手
全体事業費		約464億円 事業進捗率		65% 供用済延長
計画交通量		6,300～18,900台/日		
費用対効果 分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.3 <small>(残事業)</small> 2.8	総費用 <small>(残事業) / (事業全体)</small> 149/512億円 事業費：138/498億円 維持管理費：11/14億円	総便益 <small>(残事業) / (事業全体)</small> 421/667億円 走行時間短縮便益：328/511億円 走行費用減少便益：72/130億円 交通事故減少便益：21/27億円	基準年 平成25年
感度分析の結果 事業全体・残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.4（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C=2.7～2.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2～1.4（事業費 ±10%） 事業費：B/C=2.6～3.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.5（事業期間 ±20%） 事業期間：B/C=2.5～3.2（事業期間 ±20%）				
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・国道20号（現道）の損失時間は、約105.5千人時間/年・kmから約93.3千人時間/年・kmと前回再評価時から横ばい。 ・平成16年3月の暫定2車線開通後に所要時間は短縮したものの、長地交差点（暫定2車線開通区間への接続）や大社通り交差点（国道142号と接続）などでは渋滞が残存。 ・下諏訪・岡谷バイパスの整備により、バイパスへの交通転換に伴う国道20号（現道）の渋滞緩和が見込まれる。 ②交通安全の確保 ・国道20号（現道）の死傷事故率は、約76.5件/億台・kmから約76.9件/億台・kmと前回再評価時から横ばい。 ・大社通り交差点、長地交差点では死傷事故率が200件/億台・kmを超える交差点が存在しており、追突や出合頭事故といった渋滞や沿道出入りに起因する事故が多発。 ・下諏訪・岡谷バイパスの整備により、バイパスへの交通転換に伴う国道20号（現道）の事故削減が見込まれる。				
関係する地方公共団体等の意見 ・長野県知事の見解： 一般国道20号「下諏訪岡谷バイパス」は、交通混雑の緩和や交通事故の減少等に寄与する必要不可欠な事業です。 ついては、事業を継続し、積極的な予算確保により、早期開通を図るよう強く要望します。 また、事業の実施にあたっては、一層のコスト削減に努められるようお願いいたします。				
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 下諏訪岡谷バイパス暫定2車線（2.9km）、国道142号バイパス及び県道下諏訪辰野線の3路線を同時に平成16年3月27日に供用。長地山の手土地区画整理事業が平成14年度事業完了。				

